

資料 4

排水における協定値の
超過について

U B E 株式会社
宇部ケミカル工場

1. 発生日時、場所

1) 発見日時: 令和4年10月19日(水曜日) 10:39

(保健所立ち入りによる採水が行われた時刻)

2) 発生場所: UBE株式会社 宇部ケミカル工場西地区 No.5 排水口

2. 事故の概要

- ・No.5 排水口の立入採水サンプル(2022/10/19 10:39 採水)から大腸菌群:7700 個/cm³(協定値:1800 個/cm³)が検出された。
- ・No.5 排水経路には流域プラント(純アミン工場、第二ナイロン6工場、ジオール工場など)からの冷却水、スチームドレン、バロコン水、及びトイレの浄化槽(6か所)からの処理水が流入しそれらが混ざり合ったものがNo.5 排水口から公共用水域へ排出されている。
- ・大腸菌群異常を覚知後一定期間(10/25~10/31の平日)、No.5 排水口で3回/日(9:00、13:00、17:00)の頻度で採水し大腸菌群の測定を実施した。その結果、いずれも協定値である1800 個/cm³に対して十分低い正常値であり、異常の継続性はなかった。
- ・大腸菌群の発生源として浄化槽の異常を想定して設備点検を行ったところ、No.6 浄化槽の処理水出口の放流柵内で水位が上昇した痕跡(汚泥の付着)が確認された。そこで、ファイバースコープにて配管の内部点検を行ったが閉塞は確認できなかった。
- ・以上の事から原因究明にはいたらなかったが、次のようなメカニズムが考えられる。
 - 1) No.6 浄化槽の排水管が何らかの原因で閉塞し、浄化槽内水位が上昇
 - 2) それにより閉塞部にかかる水頭圧が上昇した事で一気に閉塞が解消
 - 3) 汚泥などを含む汚水が処理水側へ流出し No.5 排水口での大腸菌群上昇

3. 環境影響

10/21に保健所からNo.5 排水口の大腸菌群の異常値(7700 個/cm³)について連絡を受けて、直ちにNo.5 排水経路の排水の状況(外観、臭気)の確認、及びNo.5 排水口近傍海域の状況(外観、臭気、魚の浮遊有無)の確認を行ったが異常はなかった。

また、10/21にNo.5 排水口採水箇所でのサンプルについて大腸菌群の測定を行ったところ、9 個/cm³と正常値であった事、及びその後の大腸菌群の測定結果の推移も正常値で安定しており大腸菌群異常の継続性は認められなかった。

更に、大腸菌群の異常値を覚知した10/21から本報告書提出時点までの間、市民及び従業員の健康被害若しくは生活環境に関する被害が生じたとの情報はなく、毎日、No.5 排水口近傍海域の確認を行っているが海域の異変(着色や異臭、魚の浮遊等)も認められていない。

これらのことから環境及び人の健康への顕著な影響はなかったと考えられる。

4. 対策

- ・西地区 No.6 浄化槽の放流枳内部の点検を毎月実施する。点検の結果、放流枳内の水位が上昇傾向など配管閉塞の兆候があれば、閉塞原因物質の特定をすべく、ファイバースコープで配管内部を確認する。

【2022 年 11 月から実施中】

- ・No.5 排水口の大腸菌群の自主測定頻度(従来:年 1 回)を次の通り増やして監視を強化し、異常値が再発していないことを確認する。万一、No.5 排水口の大腸菌群が 1000 個/cm³を超える程の異常値を示す場合には、改めて発生源調査を実施する。

(測定頻度)

2022 年 12 月末まで : 月 2 回

2023 年 3 月末まで : 月 1 回

2023 年 4 月以降 : 年 3 回(4 か月毎)

【2022 年 11 月から実施中】

以上